

第 45 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 8 作品
- ・一般建築物部門 17 作品
- 計 25 作品

2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2024 年 9 月 13 日 (金) 10:30~11:07
於 オンライン (Zoom)

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2024 年 10 月 5 日 (土) 9:50~15:05
於 オンライン (Zoom)

第 34 回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。アフターコロナであるが、東北地方に建設された建築物を全国の人に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第 1 次審査会 2024 年 10 月 5 日 (土) 15:30~16:30
於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から一人 10 票以内で投票した。各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門 2 作品、一般建築物部門 10 作品、合計 12 作品を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 12 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については 11 月と 12 月に選考委員で分担して実施した。

- (5) 第 2 次審査会 2025 年 1 月 25 日 (土) 13:00~16:30
於 日本建築学会東北支部会議室

櫻井委員長より全体の進め方の確認と、事務局から内規の確認があった。また討議により、各委員の投票数は最大 6 票、かつ 1 作品 1 票とすることを決定した。

その後、1 作品ずつ現地審査担当委員からスライド資料等により報告がなされた後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点が報告された。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から 3 作品、小規模建築物部門から 1 作品の合計 4 作品が選定された。特別賞は一般建築物部門から 2 作品、新人賞は一般建築物部門から 2 作品が選定された。

(6) 総評

小規模建築物部門、一般建築物部門ともに、様々な用途と多彩なデザイン・アプローチによる多くの作品に応募いただき、充実した選考となりました。応募いただいた設計者・施工者の皆様に篤く御礼申し上げます。

今回選考を経て選定された作品賞 4 点は、振り返ってみるといずれも利用者や地域住民との丁寧な意見交換・ワークショップなどを経て実現され、完成後も生き生きとした空間としてよく利用されている作品であることが特徴的でした。とは言え、住民の意見などをそのまま形にしたということではなく、それらを踏まえて建築空間に落とし込み、質の高い作品としてまとめている点、いずれも秀逸であったと思います。

特別賞の 2 作品は、建築作品としての質の高さのみならず、その作品を成立させている社会的な状況に深く切り込み、建築としての回答を提示している点が大変印象的でした。

これらの受賞作が今後の東北の建築文化を向上させる一つの契機となれば幸いです。

(7) 選考結果

「作品賞」 4 作品

小規模建築物部門

会津柳津駅駅舎情報発信交流施設

【施 主】柳津町

【所 在 地】福島県河沼郡柳津町大字柳津字下大平甲 610-7

【設計監理】株式会社 TIT 富沢真二郎、池田晃一、田中大朗、安部遥香

構造設計/TS 構造設計 佐藤岳人

設備設計/電気設備：エレクトリックプラン 星忠光

機械設備：八ツ橋設備 城戸陽一

【施 工】滝谷建設工業株式会社

一般建築物部門

NIPPONIA 白鷹 源内邸

【施 主】株式会社 ukitam

【所 在 地】山形県西置賜郡白鷹町大字浅立

【設計監理】株式会社井上貴詞建築設計事務所

【施 工】那須建設株式会社

一般建築物部門

さくらんぼこどもキャンパス CLAAPIN SAGAE

【施 主】寒河江市

【所 在 地】山形県寒河江市八鍬川原 919-6

【設計監理】建築/羽田・NIIZEKI 特定設計業務共同体

(株式会社羽田設計事務所)

水戸部裕行 地主愛子 小松祐大

(株式会社 NIIZEKI STUDIO)

新関謙一郎 加藤忠弘

構造/株式会社木下洋介構造計画

木下洋介 小針匠
株式会社ディックス
田村尚土
電気／鈴木電気設計事務所
鈴木清晃
機械／連設備設計事務所
佐藤章

【施 工】 建築／高木・シェルター特定建設工事共同企業体
(株式会社高木、株式会社シェルター)
電気設備／東北電化工業株式会社
機械設備／株式会社 KOEI

一般建築物部門

認定こども園 らみどり

【施 主】 学校法人熊田学園
【所 在 地】 福島県須賀川市緑町 1-1
【設計監理】 建築／はりゅうウッドスタジオ
構造／TAPS 建築構造計画事務所
設備／ZO 設計室
照明／ぼんぼり光環境計画
ランドスケープ／STEP
園庭・設計 ワークショップ・監修／石田佳織
ワークショップ協力／日本大学工学部 浦部智義研究室
【施 工】 王子建設株式会社

「特別賞」 2 作品

一般建築物部門

白鷹まちづくり複合施設（白鷹町役場・図書館）

【施 主】 白鷹町
【所 在 地】 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833
【設計監理】 建築：環境デザイン研究所
構造：山田憲明構造設計事務所
設備：イーエスアソシエイツ一級建築士事務所、大瀧設備事務所
外構：山栄測量設計
【まちづくり複合施設、エネルギー棟、書庫棟、車庫棟】 那須・鈴木JV
【防災倉庫棟】 丸ト建設
【電 気】 東北電化工業
【機 械】 飯鉢工業

一般建築物部門

風をつなぎ、森をめぐるヴィラ

- 【施主】社会福祉法人あいの実 理事長 乾祐子
【所在地】宮城県仙台市泉区西田中松下23
【設計監理】有限会社都市建築設計集団/UAPP
構造設計／皆本建築工房 皆本功
機械設備設計／内外設備設計 高橋十悦
電気設備設計／アイワ企画事務所 高橋守
【施工】株式会社市村工務店

「作品新人賞」 2名

作品名：青森市新市庁舎

小寺 亮（株式会社佐藤総合計画）

作品名：東北学院大学 五橋キャンパス

古川 侑慧（株式会社佐藤総合計画）

(8) 講評

作品賞

【会津柳津駅舎情報発信交流施設】

本駅舎は、JR 東日本から町が購入したことを契機に、駅舎機能はもちろん、倉庫となっていた駅舎の半分を地域の活動拠点となるカフェやワークショップスペースなどの交流スペースに改修した駅舎です。赤べこは会津柳津町が発祥の地とされており、ここでは赤べこの製作体験もできます。建物ができるまでには多くのワークショップを地域住民と行ったことで住民との協力体制が形成され、本施設の運営に生かされています。外装は、新築当時の写真を調査したり、住民に対して聞き取り調査をするなどして、当時の記憶にあった駅を再現しています。JR 東日本との所有区分の分筆ラインがあることで、建物への制約もありながら新しい庇やベンチスペースなど、制約を感じさせない豊かなホームスペースを実現しています。この駅舎ができたことで、只見駅からこの駅まで電車を利用して紅葉などを見物した観光客を、観光バスにて回収する拠点にもなり、かならず観光客が立ち寄る駅となっていることで賑わいが生まれ、可能性を感じる魅力を持った駅舎づくりが評価されました。以上のような点から、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【NIPPONIA 白鷹 源内邸】

NIPPONIA 白鷹源内邸は、既存の歴史的建造物をホテルにリノベーションした意欲作です。旧所有者の奥山家は、宝暦年間の初代高橋源内からはじまる豪農で、功績碑が建立されるほど地域の発展に尽力しました。源内邸は、約 8000 平米の広大な敷地内に明治中期から大正初期頃に建てられた複数の建物で構成され、庭木や竹林、池や石畳など、当時の豪農の屋敷構えを遺しています。主屋、書斎、土蔵 4 棟の歴史的建造物を含む計 7 棟を改修し、8つの客室とダイニングに用途を変更しています。改修は、便所・風呂等の水回りや消火設備等の新設、内壁の美装化など極めて限定的で、屋根や外壁は補修とするなど、建物本来の魅力を最大限に活かすよう工夫しています。外構には、白鷹町で明治期以降流通した凝灰岩の高畠石を多用して農村景観を積極的に整備し、客室に開口部を設けて竹林を望む等、周囲の景観を空間に取り込む演出も際立ちます。改修時の地域住民との連携や協働は、源内の地域貢献とも合致し、地域史の継承にも寄与しています。歴史的建造物と地域固有の農村景観を踏まえた独自の滞在空間の創造が高く評価され、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【さくらんぼこどもキャンパス CLAAPIN SAGAE】

山形県寒河江市に位置するさくらんぼこどもキャンパスは、開館以来市内外から多くの来館者が訪れ、日々こどもの賑わいに溢れた施設となっています。一見するとやや閉鎖的な印象を与える部分もありますが、遊具となるツリーを中心に広がる大きなヴォリュームと、中心に向かってすり鉢状となる起伏は、明るく開放的で施設全体がこどもが遊べる場として機能しています。また中心に向かって傾斜するヴォイドは、こどもの遊具であるとともに、それを見守る保護者から俯瞰できる空間となっており、適切なスケール感が設定されています。そして、特異な平面形状により生み出されるニッチな空間は、工作やワークショップスペースとなるなど、遊びが発展する場としてデザインされています。また周辺環境の起伏と連続するような屋根形状と軒の高さを考慮し、ランドスケープについても一定の工夫が見られました。3次元で変化する屋根形状など、BIMを前提とした建築生産プロセス全体を通じた連携を実現し、設計のフィードバックと事業全体のコストマネジメントにも積極的に取り組んだ点も評価に値します。以上の点から、高い評価を得て東北建築賞作品賞に推薦されました。

【認定こども園 らみどり】

発注者から、自然を生かした森の幼稚園のような保育環境を作りたい、という要望を受け実現した認定こども園です。敷地は小高い起伏のある丘陵地であり、建物は起伏のある地形に寄り添うように、S字のカーブを描き、高低差のある地形にゆるやかなスロープで合わせた建物となっています。地形と建物が寄り添い、一体感を感じられる作りになっていると評価できます。また、既存の桜の巨木を残し、建物には大径木を使用した三角屋根がリズムカルに並び、この地域の風土を感じられる森のような保育環境を作り上げています。各保育室の内観は、縦ログと三角形の屋根で構成され、前後の大きな開口から視野が広がり、気持ちの良い空間が広がっています。地形に寄り添った建物を作るためにS字の平面形状とし、高低差を処理するにあたっては、床のレベルや屋根の形状を変え、それでいて違和感のない建物を作り上げています。こうしたことが高く評価され、東北建築賞作品賞に推薦されました。

特別賞

【白鷹まちづくり複合施設（白鷹町役場・図書館）】

白鷹町は、町土の約65%が森林ですが、外国産材の輸入拡大などを受け、手付かずの森林が増えています。そこで町は、森林経営、木材の製材や流通、木材の利用促進の一体的な活性化に着手しました。町役場を含むこの複合施設では、町内の生産能力に合わせ、柱や梁に用いる製材の寸法を限定したり、民間の出資により木材乾燥施設を完成させたりしながら、まさに町が目指していた森林・林業・木材産業の川上から川下までの活性化を体現しており、この点を高く評価し、特別賞の受賞となりました。複合施設は、耐火構造のコアを複数挟むことで、庁舎全体の木造化を実現していることが特徴です。また、大会議室や議場の大架構も迫力があります。さらに、この施設の最大の魅力は、エントランス近傍の町民ラウンジです。敷地の高低差を町民ラウンジ周辺で解消しており、周遊すると立体迷路のような楽しさがあります。町民ラウンジには杉の香りが漂い、休日も多く多くの町民が集っています。ワークショップを通して丁寧に町民の声を拾い上げた成果であると評価できます。

【風をつなぎ、森をめぐるヴィラ】

本計画は、従来医療と児童福祉の社会的な狭間となっていたニーズに対して、医療型児童デイサービスのサテライトを目指したプロジェクトです。仙台市北部の郊外に実現したこの施設は、機能別のゾーニングを踏まえた中庭を囲むシンプルな構成でありながら、外部と内部をつなげる水平方向の開放性や周辺環境とのレベル差、開口部周辺のデザインなどの工夫が随所に見られます。障害を有する利用者へのケアの空間として、様々な計画的配慮が為されているとともに、同伴する家族の視点と使い方にも注意が払われています。隣接するカフェを計画することによる保護者の送迎時の滞在や就労の場を儲けようとしている点などは新しい試みと言えます。そして、これらの計画の背景には、設計者と運営者との綿密なコミュニケーションにより、汲み取るべきニーズと実際の運営時における課題を設計にフィードバックするプロセスも重要な意味を有しています。以上、今後の医療・福祉社会の一つのモデルとなりうる可能性を感じさせることから、東北建築賞特別賞に値する評価となりました。

作品新人賞

【小寺 亮 (株式会社 佐藤総合計画)】

既存の議会棟を活かして増築された低層の建築であり、リズムよく配置されたスクエア窓がのびのびとした印象を与えています。1階のサードプレイスは、季節を問わず市民の憩いの場として賑わい、市民協働を体現したスペースとなっています。本プロジェクトは、もともと全面建替えの前提で設計が完了していたところ、社会状況の変化によって設計し直したものと伺いました。対象者は、このプロセスに一貫して関わり、担当者として粘り強く対応されています。その努力・力量と、建築の質の高さに鑑み、東北建築賞作品新人賞にふさわしいと評価します。

【古川 侑慧 (株式会社 佐藤総合計画)】

仙台市泉区にあった教養学部と多賀城市にあった工学部の移転・一体化を目的として整備された都市型キャンパスです。4つの大きな建物を屋根付き歩廊「TGU リング」で結び、メインの活動フロアである2階を活気づけながら回遊性に寄与しています。6万㎡を超える建築群であり、各棟に設計担当者が配置されていますが、対象者は基本設計から監理まで中心的に関わり、全体をとりまとめつつ、発注者と施工者への窓口としての役割を担っています。担当者としての努力と、豊かな空間の創出に係る実績により、東北建築賞作品新人賞にふさわしいと評価します。

第45回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・櫻井 一弥	東北学院大学工学部環境建設工学科
選考委員	・日比野 巧	日本大学工学部建築学科
	・菊田 貴恒	東北工業大学建築学部建築学科
	・西脇 智哉	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
	・坂口 大洋	仙台高等専門学校総合工学科建築デザインコース
	・小地沢将之	宮城大学事業構想学群
	・長田 城治	郡山女子大学家政学部生活科学科
	・青笹 健	岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科生活デザイン専攻
	・中山 武徳	(株)中山建築研究所
	・進藤 勝人	(株)八洲建築設計事務所
	・後藤 伴延	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

第 45 回東北建築賞業績賞選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

「竹駒神社馬事博物館を始めとする社殿及び境内に関する一連の調査及び修復整備事業」 受賞者 竹駒神社

竹駒神社は承和 9 (842) 年の草創と伝えられる古社である。本殿、幣殿、拝殿は平成 2 年に放火により焼失したが、その後ただちに社殿は復興された。また、焼失を免れた唐門、楼門、境内社などの古建築に対しては、将来的な保存と活用を視野に入れた継続的な調査・保存修理を行うことを目的として事業が展開された。その結果、平成 31 年に唐門が県指定文化財に、令和 2 年に境内社三社（愛宕神社、八幡神社、総社宮）が岩沼市指定文化財となった。その後、令和 3 年に馬事博物館（昭和 13 年竣工）が国の登録有形文化財となった。

これらの事業の成果は報告書としてまとめられ、特に『竹駒神社馬事博物館建物調査整備報告書』では、設計者や設計監理者などの組織、戦前期の日本趣味的な建築様式、物資不足のなかでの構造や内外装の仕上げ、建具や家具について、総合的に、科学的に、しかも緻密に調査された成果が報告されている。さらに旧近江セールズ社製の建物金具の使用が示されるなど、我が国建築の近代化の一端が明らかにされ、各方面から大きな注目を集めた。

竹駒神社におけるこうした一連の事業は、歴史的建造物の保存のみならず、市の中心部に位置する境内地を都市景観の美化や活性化にもつなげようとするもので、その過程で明らかにされた建築的様相は当該学術分野に大きく寄与するものである。

以上より、本業績は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。

「福島県の文化財的建造物の保存管理に関する業績」 受賞者 三浦工匠店

三浦工匠店を昭和 46 年に創業し、現在は取締役会長である三浦藤夫氏は、これまで 50 年にわたって、全国を対象とした「日本建築セミナー」の二級建築士・学科 WEB コースの講師として、木造建築在来工法に関する継手仕口の実際について後進の指導にあたってきた。また、福島県内の伝統的建築物の状況を日々確認している。

昭和 63 年に二代目社長に就任した三浦慶頭氏は、父の意思を継ぎ古建築の復原修復に努めている。さらに在来工法を後世に伝えるべく、日々研鑽を重ねている。その証として、平成 27 年の「県建築文化章 復興賞」を皮切りに、数々の受賞をするに至っている。

具体的な事例としては、旧亀岡家住宅の補修工事や、梁川八幡神社の復元改修工事などが挙げられ、その範囲は多岐に及ぶ。このように親子二代にわたり地域の伝統をまもるべく、文化的土壌を保全すべく、その中心的立場として活動している姿勢は、ヘリテージ・マネージャーの参考とすべき活動として称讃に値する。

以上のように、福島県の古建築の保存管理に長年にわたって多大な貢献をしたことから、本業績は東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

第 45 回東北建築賞業績賞選考委員会

委員長：飛ヶ谷潤一郎

委員：浅里和茂、石山 智、有川 智、浦部智義、村上早紀子、赤井仁志、後藤伴延（常議員）

第45回東北建築賞研究奨励賞選考報告

選考委員長 五十子 幸樹

論文：慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性（その1）実験的考察 /（その2）解析的検証
受賞者：高橋 辰弥（東北工業大学 修士課程）

本年度（2024年度）の研究奨励賞への応募論文は、構造分野において高橋 辰弥氏（東北工業大学修士課程）から提出された「慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性（その1）実験的考察 /（その2）解析的検証」の1件であった。

本論文は、細管内を高速で通過する液体が発揮する粘性抵抗と慣性質量効果を活用して地震時における建物の応答を低減する振動制御装置に関するものである。このような装置は fluid inerter として現在では国際的にも広く研究されているが、日本において本会の川股重也博士らが1970年代の早い段階に提案したものである。候補者の研究はこの研究の流れを汲むものとなっている。

候補者が検討対象とした「慣性質量効果を有する液流ダンパー」は、既往研究において inerter の実装方法として提案されているボールねじ機構、ラック・ピニオン機構等と比べても機構が単純であり、また、連結管形状の操作により粘性抵抗力と慣性抵抗力 (inertance) を同時に調整できることに利点がある。候補者は、試作した縮小試験体単体に対して正弦波加振実験を行い、提案装置が発揮する粘性抵抗力と慣性抵抗力を精度良く再現する力学モデルを構築している。成果は本会東北支部報告集に加えて世界地震工学会議においても発表し評価を得ている。

欠席委員から事前に提出された報告書の中には、候補論文において既往研究との関係性における研究の位置づけが不明快であること等について指摘があったが、出席委員による議論では候補論文に近い専門分野の委員からの補足説明があり、また、若手研究者に広く受賞の機会を与えるという奨励賞の趣旨に沿う形で候補者の受賞に肯定的な意見が主流であった。

以上より高橋氏の研究について、出席委員の評価と他委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、委員8名がすべて合格、欠席委員からの事前報告においては2名が合格、3名が出席委員の判断に一任という結果であり、本論文が研究奨励賞に相応しい業績であることを承認した。

第45回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

委員長：五十子幸樹

委員：西田哲也、齋藤俊克、権代由範、寺本尚史、菊池義浩、苅谷智大、小幡智之
野村俊一、石田泰之、長谷川麻子、小地沢将之、山本和恵（常議員）